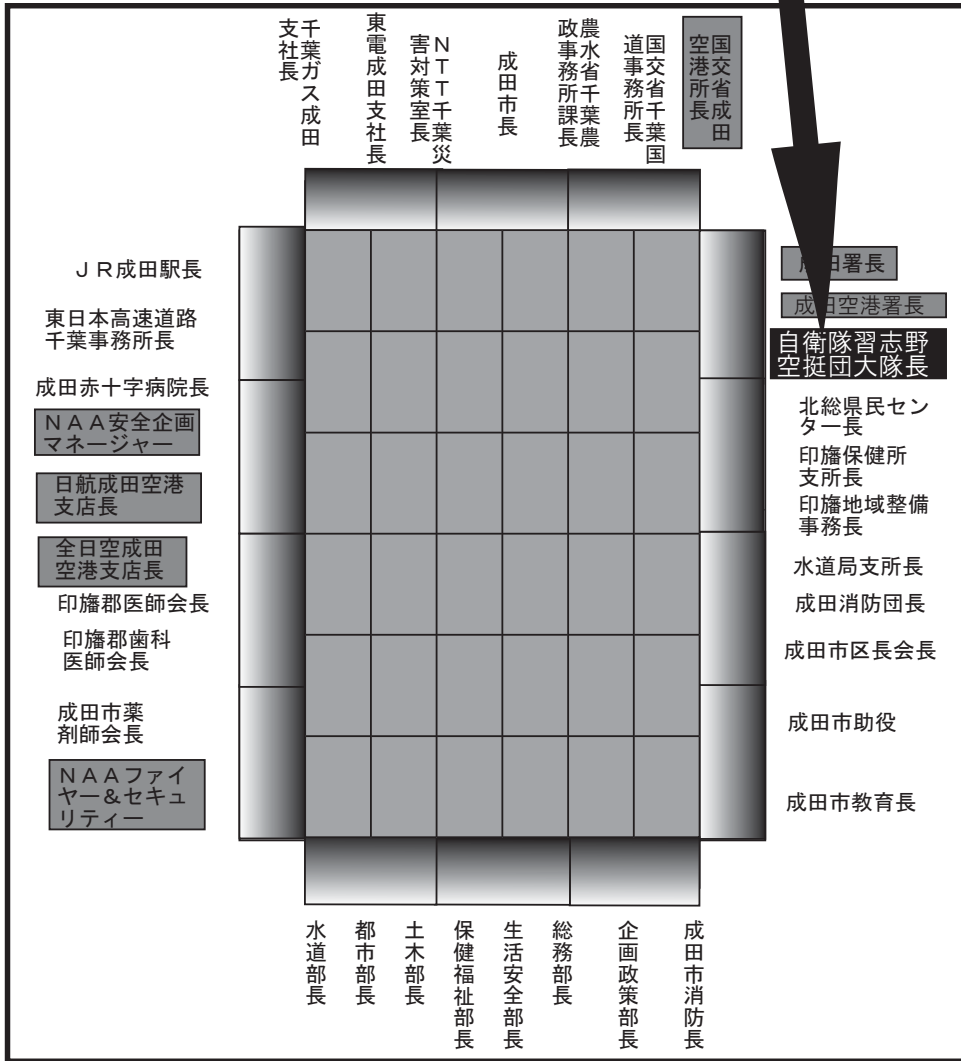


# 自衛隊幹部が主導する成田市国民保護協議会



右図は成田市国民保護協議会の席次。自衛隊習志野空挺団幹部を中心に警察、空港、医療、運輸関係代表がずらり。「ミサイルが飛んでくる」との荒唐無稽な話で市民を戦争に動員しようとしている

# 「ミサイル」まで来た戦争動員計画

## 成田市国民保護計画

### 北朝鮮を敵に見立て市民動員

今、「国民保護計画」という名のとんでもない戦争動員計画が成田市で進められています。北朝鮮を仮想敵国にして「テポドン（ミサイル）が飛んできたら大変」と市民の恐怖心をあおり「国民保護」の美名とは逆の、戦前のような隣組（となりぐみ）を作ろうとしています。

**労働者も組み込んで**

その体制作りの協議会には自衛隊習志野空挺団の幹部が参加しています（上図）。自治体、医療、空港、運輸労働者もこの体制に組み込まれます。成田空港には米軍が現地調査に来ます。市民と労働者の力で戦争動員計画をやめさせよう。（裏も「覧下さい」）

### 三里塚芝山連合空港反対同盟

（連絡先）事務局長・北原鉦治 成田市三里塚115

# 自衛隊による軍事使用許さない

## 制服のまま成田からネパールへ

### 「省」昇格後初の派兵

3月30日、ネパールPKOに向かう自衛隊部隊が、自衛官50人が見守る中制服のまま成田空港から派兵されました。



写真は地震救援を口実に迷彩服で出発した自衛隊救急隊（05年3月）

成田空港は民間空港です。この間制服姿の自衛隊が部隊で出発することとはなかったのです。自衛隊はバスの中で制服から私服に着替えていました。これは大変なエスカレーションです。防衛庁が「省」に昇格し海外派兵を主任務に格上げした事が背景にあります。私たちは成田空港の軍事基地化に反対します。自治体、医療、空港、運輸の労働者は空港の軍事化に反対しよう。

## 米軍が成田空港現地調査に



他方で、別の重大な動きがあります。朝鮮半島で戦争が起きることを想定して、米軍がこの春現地調査に来るのです。1月5日の読売新聞が報道しました（左下参照）。

朝鮮での軍事行動は日本列島を輸送・兵たんの基地にしなければ成り立ちません。その中心が成田空港をはじめとした巨大空港・港湾です。

同じ読売新聞は「日米の共同作

戦計画を今秋までに作成する」という計画も暴露しています。

アメリカは石油利権のために、世界の人のびとの声を踏みにじってイラク戦争にふみきました。次は朝鮮半島での軍事行動です。そのために成田を軍事基地にしようとしているのです。

しかし、成田市長はこの動きに反対せず、容認する姿勢です。私たちは成田空港の軍事基地化に反対します。すべての成田市民は戦争への道を阻止するために力を合

「朝鮮有事の際に米軍が成田空港を使うため、今春にも現地調査に来る」（1月5日付読売新聞1面トップ）

民間機で戦地にむかうアメリカ軍。成田でもこのような光景が展開されようとしている（91年湾岸戦争）